

2016年(平成28年)12月21日(水曜日)



## 硫化水素の発生抑制

### 白岡市で下水圧送管洗浄

アイスピグ研究会

アイスピグ研究会は20日、アイスピグ管内洗浄工法が下水管内に長年付着・蓄積した夾(きょう)雑物を取り除き、

をしっかりとそぎ落とし、下水管やマンホールの腐食の原因となる硫化水素の発生を大幅に抑制できることを実業務で確認したと発表

した。対象とした業務は、埼玉県白岡市発注の曲線を含む長距離下水圧送管(管径150mm、延長500m)の洗浄で、会員企業の東亜グ

ラウト工業が11月に実施。洗浄後1週間の圧送管吐き出し口の硫化水素平均濃度は4・66ppmと、洗浄前(18・674ppm)の4分の1にまで低下した。

今回の洗浄業務は、圧送管内の硫化水素濃度を下げ管路の長寿命化を図ることを目的としたもので、長距離管を一気に洗浄できる

上、曲線にも対応可能なアイスピグ管内洗浄工法が採用された。約4mの特長アイスシャーパーを管内に注入し長さ約250mのアイスピグを形成した後、ポンプの力で圧送。おむね30分で洗浄作業を終えた。

同市はこの下水圧送管路を年に1度のペースで同工法により洗浄し、圧送管の吐き出し口での硫化水素濃度や流量の改善数値の変化を確認し、下水圧送管の維持管理方法の検討に生かす考えだ。

常時送水している下水圧送管は、安全に短時間で管内洗浄する方法がこれまでになかったため、維持管理が手付かずの状況で、流量低下が顕在化した段階で対策を検討するケースが多い。硫化水素により管路が腐食し、汚水が地中に漏れ出す事例も増えているとい